

産業人 烈伝

「爽やかに生きる」。これが私のモットーだ。これまで幾度となく壁にぶつかったが、持ち前の明るさと行動力で乗り越えてきた。経営環境が厳しくなると物事を悲観的にとらえがちだが、経営者とは対極的で、前向きな性格に産んでくれた親には感謝している。どうやら、ほかの経営者とは物事の考え方やアイデアの発想がちよっと違うところがあるようだ。過去の困難な状況下でも経費節減などは行わず、出張旅費、接待費等はカットせず、むしろ積極的に使うように促す。社員のモチベーションを保つことで事業拡大に臨んできた。その結果、10年ほど前から無借金経営となり、現在に至っている。

「爽やかに生きる」

赤見製作所・赤見昌彦社長 ①

次に進めたのは、当時はまだ珍しかった「事業の選択と集中」。浸炭炉や窒化炉などさまざまな炉を扱っていたが、強みを持つ特許回転炉5機種に特化。さらに回転炉をベースにした技術開発に磨きをかけ、これが現在のわが社のエース製品「赤見式特許ラジアル炉」の誕生につながった。CO₂の大幅削減(2分の1以下)を実現し、有機・無機問わず粉・粒体の乾燥・焼成に好評を得ている。



技術エンジニアの集団になる...と赤見社長

赤見製作所は87年前に東京都墨田区で創業した工業炉の草分けメーカー。日本初のシュールミン溶解用大型電気炉を開発し、戦前から陸軍や海軍、大手電機メーカーなどに電気炉などを納入していた。父親の経営するわが社に入社したのは才

しる当社の経営体質を強めるきっかけとなった。現在でも社員がのびのびと業績向上を目指す社風づくりを心がけている。社員はモチベーション高く、世の中に役立つ当社製品を自信を持って案内している。社員も「爽やかに生きる」を実践しているようだ。(東京都豊島区) (4回連載)

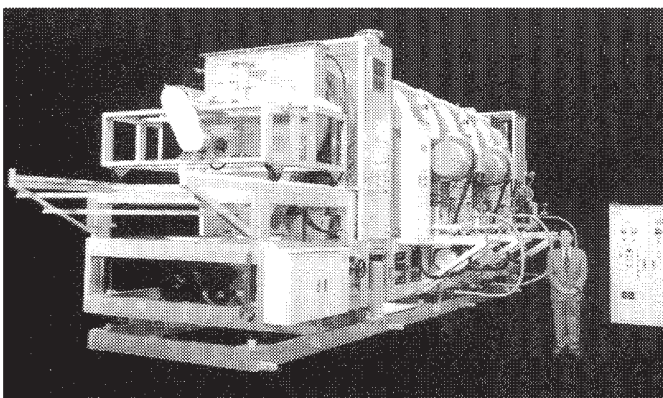
産業人 烈伝

顧客への感謝の気持ちを忘れないう。当社が納入した機器に顧客が満足し、喜んでくれた瞬間に私は大きな喜びと経営者としての生きがいを感じる。世の中の役に立つと信じて開発した機器の性能を高く評価してくれる顧客の声を聞きたくて事業に取り組んでいる、と言っても過言ではない。

感謝の気持ち忘れず

赤見製作所・赤見昌彦社長 ②

このラジアル炉で次に試みたのが用途の拡大。機器を一部改良し、金属が主体だった乾燥・焼成の対象を食品や環境関連などに拡充した。この用途拡大も、顧客に受け入れられるまでにやはり一定期間を費やしたが、産業界で環境意識が高まるにつれてさまざまな分野で評価されていった。



赤見式特許ラジアル炉

製品が軌道に乗るまでは不安を抱きがちだが、私は前向きな性格のせいか、売れない時でも「良い勉強をさせてもらっている」と考える。よくよく考えるより、まず行動するタイプだ。もちろん事業は熟慮を重ねた上で臨むが、考えているだけで物事は好転しない。積極的な行動を伴って、初めて事業はうまくいく。その積極性こそが当社が掲げる現場主義。現場で顧客と密に接し、かゆいところに手が届くきめ細かな製品づくりを心がけている。誠意をもってアクティブに行動すれば、顧客の喜ぶ顔にまた出会えることができる。(全4回)

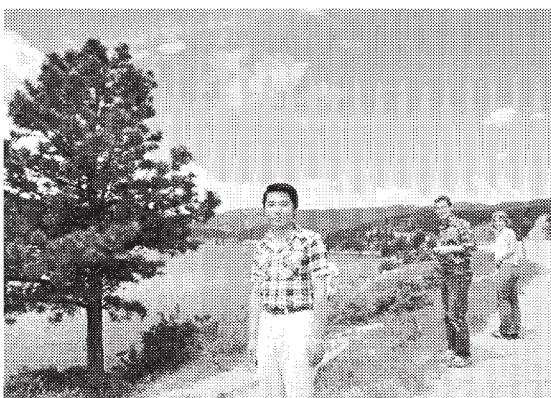
産業人 烈伝

30年ほど前、私は米国の大地に立っていた。百数日をかけて全州を訪れた一人旅。オイルショックの困難な時期を乗り越えたのを境に、その後の企業経営に役立つ「何か」を肌で感じたいと思った。当時、米国は多くの分野で世界のトップにあり、そのエネルギーに魅かれてみたかった。

豊かな「時」を過ごす

赤見製作所・赤見昌彦社長 ③

スケールが大きな米国で実に数多くのものに触れた私。子供の頃に天体観測に熱中した時期もあり、もともと雄大な自然や宇宙には強い関心があった。先の宗教ではないが、星を見上げながら無限の宇宙と神の存在を考えたこともあるほどだ。



全米を百数日かけて旅行した米アンバーで撮影

成が始まり、「時間」の概念が生まれた。時間の経過とともに人は老い、形あるものはいつかは壊れる。「時」の流れは、あらがうことのできない神のような存在ではないか。もし神がいるなら「時」そのものでないか、と言ったら、天体少年の発想と笑われるだろうか。でも、だからこそ時間の流れを大切にしたい。米国で貴重な「時」を過ごし、社員や協力工場と代え難い時間を共有してきた。今後も豊かな「時」を積み重ねたい。(全4回)

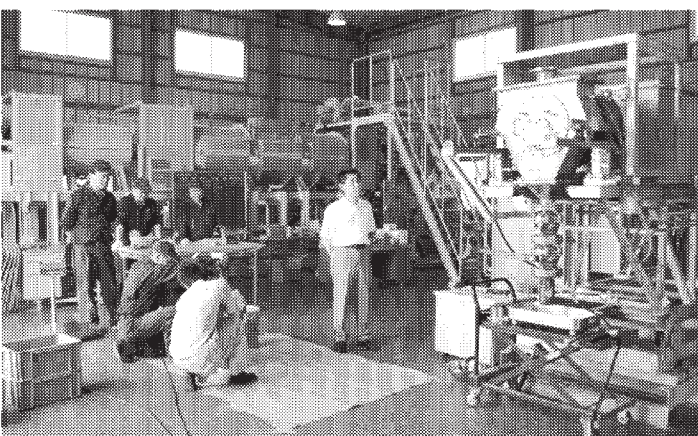
産業人 烈伝

森羅万象。見上げた星空の輝きに感動した少年時代、米国を百数日かけて一人旅した若かりし日々。どの時代も自分の存在や常識をはるかに超える美しさや雄大な自然に魅せられていた。

人脈こそ一番の財産

赤見製作所・赤見昌彦社長 ④

最近、私の船の帆には良い風が吹いてくる。環境対策や省エネルギーを重視する潮流だ。赤見式特許ラジアル炉は、リチウムイオン電池を構成する負極材(多くはカーボン)や正極材の焼成までの工程数と工程時間を大幅削減できる。消費電力も少なく済み、節電・環境対策に貢献する。電子材料の分野でも当社製品が活躍する舞台はまだある。



熊谷試験研究所(埼玉県熊谷市)でのラジアル炉試験機を使った材料試験

第一の基本である。私の船は、航路が限定されていない。わが社のエース製品「赤見式特許ラジアル炉」は過去の納入実績に安住せず、それまでと違う用途・市場の開拓に取り組んできた。金属が主体だった乾燥・焼成の対象を食品や環境関連に拡大しただけでは足りない。製鋼工程に必要な石灰の品質も短時間で大幅に向上できることが分り、今秋には国際特許を申請して、アジアの鉄鋼関連業にむかって船出する計画だ。

海図にさまざまな航路を描けば、必ず経営の礎を強固にできる。ただ、航路を描いても、私一人では船を走らせることはできない。社員や協力工場、取引先、さらには事業以外でも示唆に富む助言をいただいた方々を含め、これまで築いた人的な輪が私の一番大きな財産。大海原に出航する私に勇気をくれる。中小企業がとかく神経を配る金融機関と良好な関係を築けているのも、多くの人々の協力で堅調に事業を運営できているからだ。樹木が無数に並ぶ「森羅」のように、今後も数多くの人と手を携え、航海に向かいたい。最後になりましたが、このたびの東日本大震災により被災された皆さまが、一日も早くお元気にされますよう、心よりお祈り申し上げます。(おわり)